

第56回日本社会心理学会 公開シンポジウム  
現代医療と心理学：医療現場におけるコミュニケーション  
2012年6月2日（土）、大分

# 医療コミュニケーション

## サイエンスとアートの視点から

大分大学名誉教授

大分大学医学部 創薬育薬医療コミュニケーション 教授

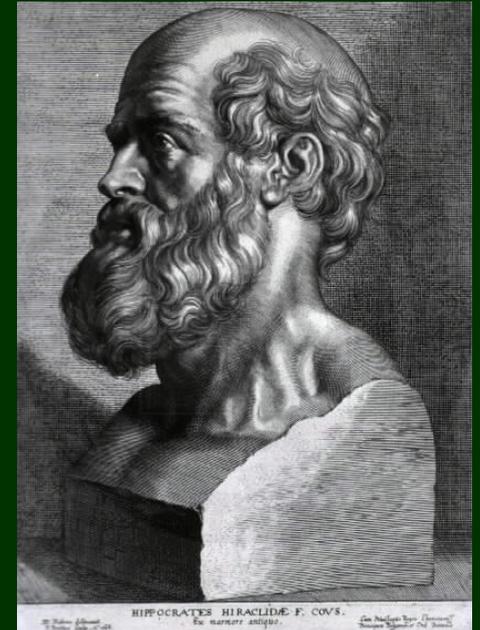
国際医療福祉大学大学院 特任教授

中野 重行



# ヒポクラテス(紀元前460年頃~370年頃)

- ・ コス島生まれ、コス派 (vs. クニドス派)
- ・ **医学の父、医聖**
- ・ 功績：原始的な医学から迷信などを切り離し、  
**経験科学へと発展させた！**
- ・ **観察と記述を重視**：ヒポクラテス顔貌 (死相)
- ・ **自然治癒力**：休息、安静、環境要因 (空気、水など) の重要性を指摘！  
良いことをするか、少なくとも悪いことはするな！
- ・ **ヒポクラテス集典**：死後100年経って。
- ・ **ヒポクラテスの誓い**：医師の倫理性と客観性を重視  
厳格な職業意識、規律、厳しい訓練



# ルネ・デカルト (1596~1650)

・ 我思う、ゆえに 我あり！

・ **心身二元論**

光の面：身体面の科学的研究は劇的に進展した！

影の面：心の面の研究は遅れた！

心と身体が分離してしまった！

専門分化（全体の見えない専門家）

<行き過ぎへの反省から>

・ **心身医学**（Psychosomatic Medicine: PSM）、心身一如

・ **臨床心理学**



*renedescartes*

# 科学が重視してきたものは？

1. **普遍性** (いつ、どこでも~)
2. **論理性** (明快に首尾一貫して~)
3. **客観性** (誰が見ても~)

- これに適合しないものは、軽視される！
- 計測（数量化）できるものに向く！  
つまり、**人間の一面しか取り扱えない！**

# Evidence

## 臨床研究

1. 普遍性
2. 論理性
3. 客観性



予測  
個別化 (応用)



個人からなる集団

One of them



患者個人

One of one

過敏性腸症候群における下痢・便秘症状  
に関する心身相関をどのようにすれば  
科学的に実証できるだろうか？

臨床経験から得たヒント

1. 高校生の学校不適應児には、下痢・便秘と頭痛の症状を訴える者が多い！
2. 過敏性腸症候群の患者が社会復帰していくとき、下痢便秘症状はまだ持続しているにもかかわらず、下痢便秘症状を悩まなくなった者が多い！

# 下痢・便秘の出現頻度

下痢 →

便秘 →

- 下痢は男性に多く、便秘は女性に多い！
- 下痢・便秘の出現頻度は思春期に増加する！

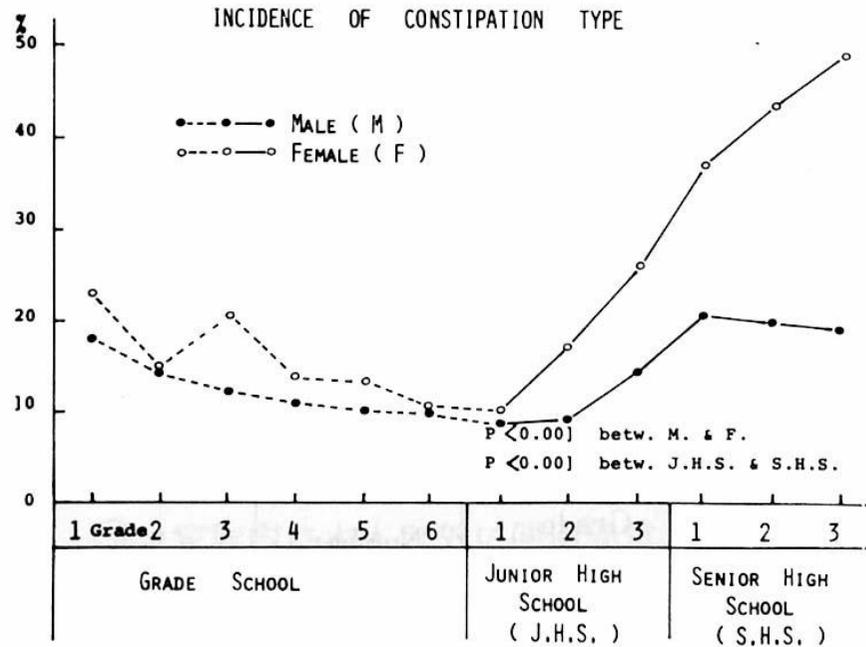
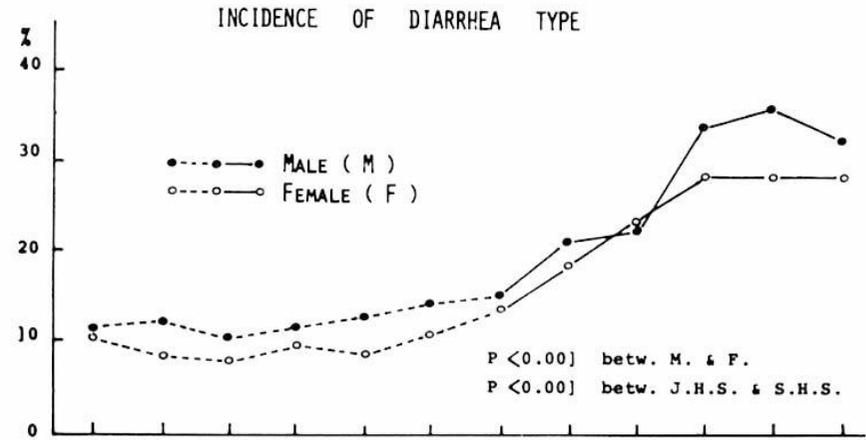
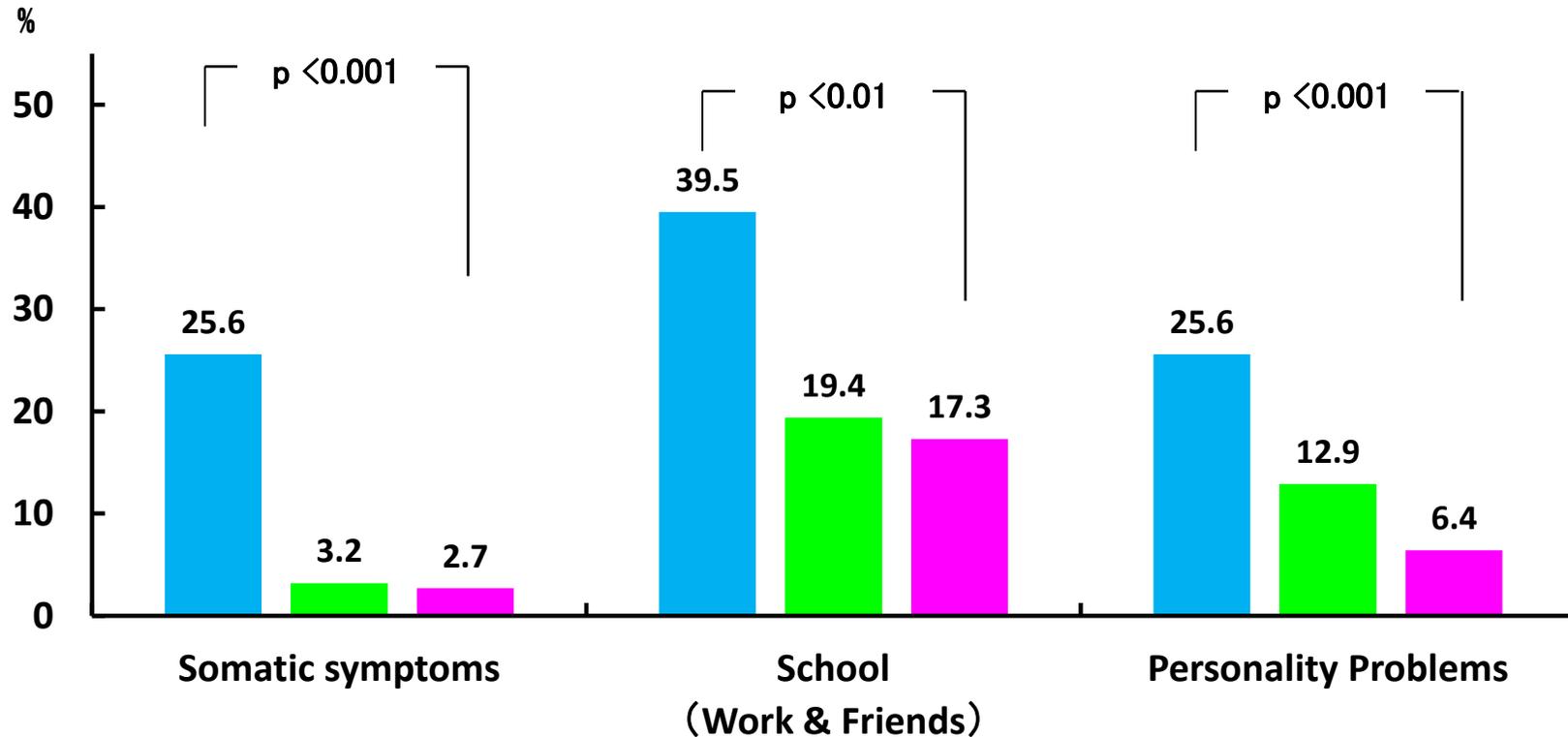


Fig 2. Incidence of diarrhea and constipation

# 悩みがありますか？

What Worries You Most ?

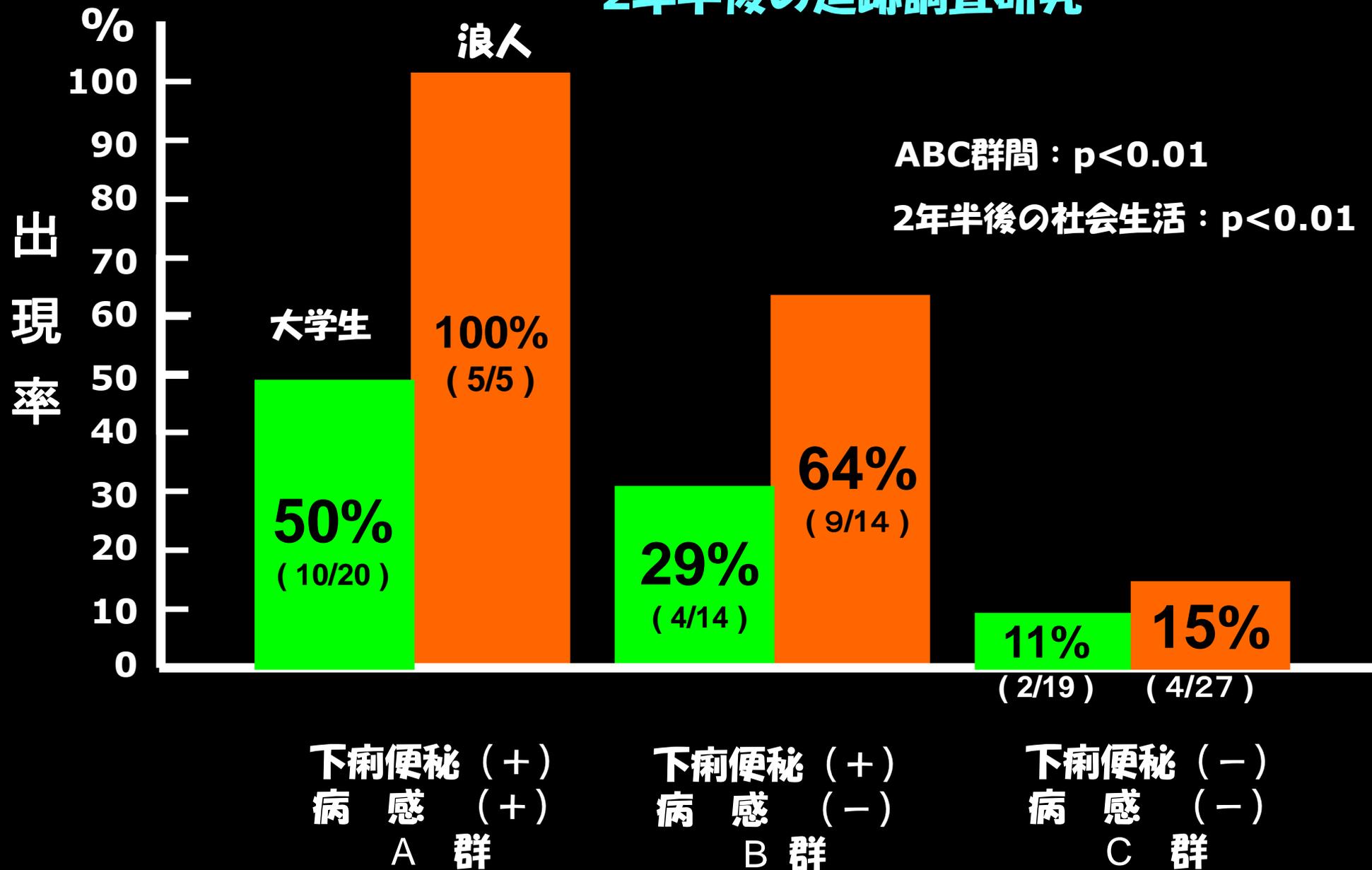


■ A 群 : 3カ月以上にわたり便通異常がありそれを治したいという病感のあるもの (N = 43)

■ B 群 : 3カ月以上にわたり便通異常はあるがそれを正常だと思い気にしていない者 (病感のない者) (N = 62)

■ C 群 : 3カ月以上にわたり便通異常も病感もない者 (N = 110)

# 思春期における下痢便秘症状と社会環境の変化との関連性 2年半後の追跡調査研究



# 過敏性腸症候群における下痢・便秘症状 に関する心身相関をどのようにすれば 科学的に実証できるだろうか？

**調査研究である程度まで実証できる！**

- 1. 下痢・便秘症状 および 病感は、思春期に急増する！**
- 2. 下痢・便秘と病感は、心理社会的要因（不安など）と密接に関連している！**
- 3. 社会環境要因が著変した時点での追跡調査研究は、心理社会的要因と下痢・便秘・病感の間には因果関係があることを示している！**

# アレクシス・カレル (1873~1944)

- ・フランス人 外科医、生物学者
- ・1912年 ノーベル生理学・医学賞受賞  
受賞理由：血管移植 および 臓器移植  
に関する研究



## Man, the unknown (1935年)

### 人間、この未知なるもの

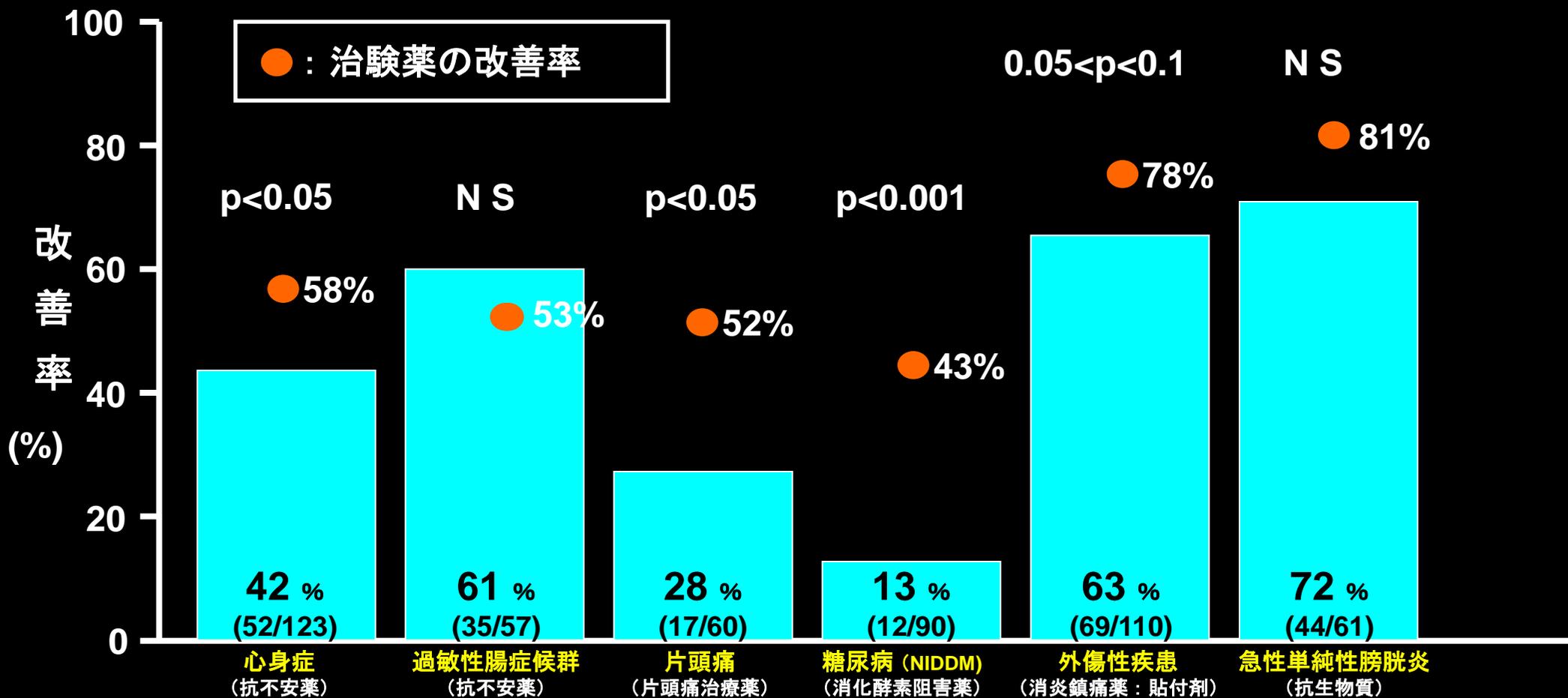
晩年に書いた世界的ベストセラー

- ・「人間の科学」：分析から総合へ（比較試験できない！）
- ・「人間」についての膨大な知識をどう生かすか

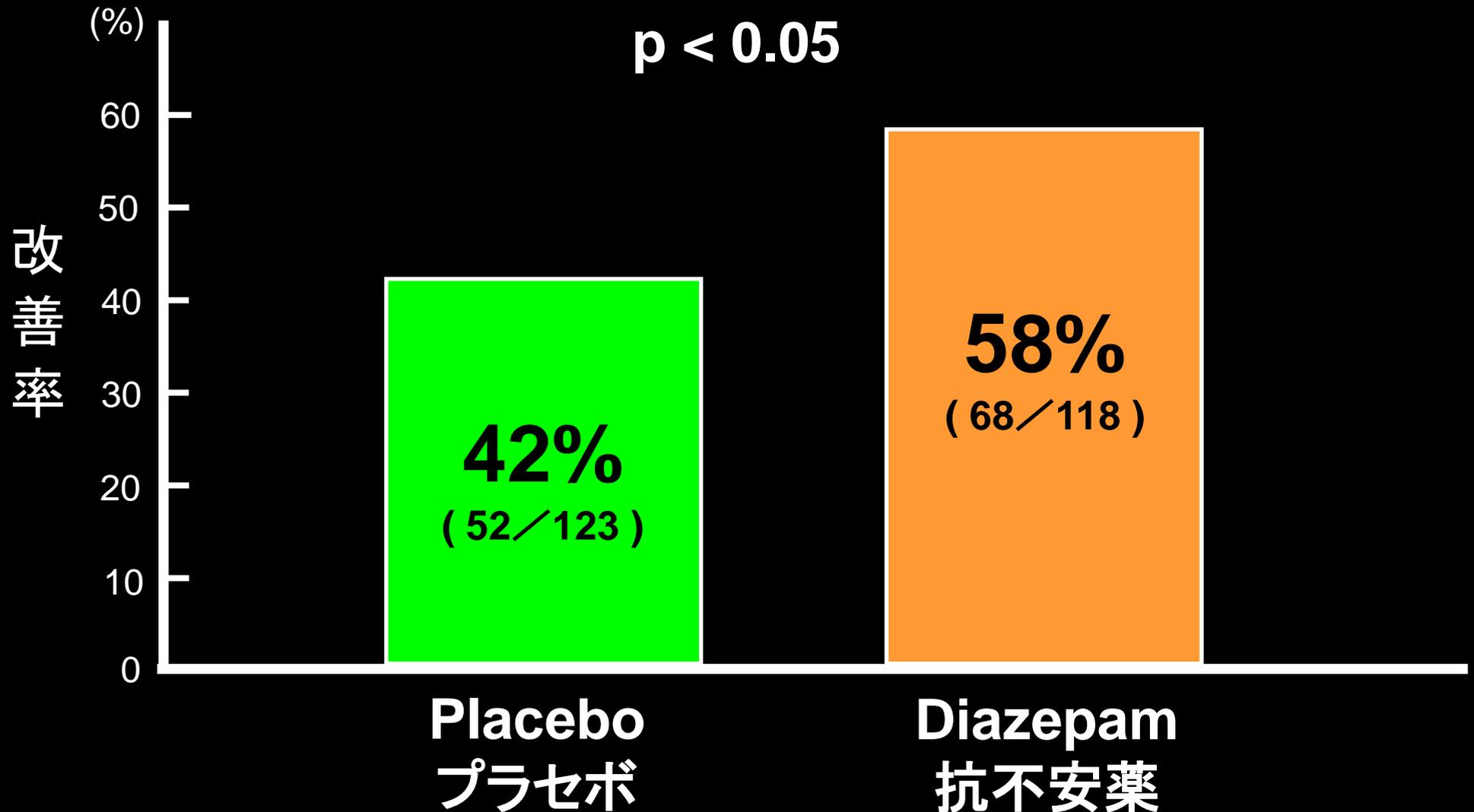
# 脳とこころ

- **脳も身体の一部** である！
- **こころは脳（身体）の働き** である！
- **ハードウェア（脳・身体）**：車の構造  
科学に基盤を置く近代医学が研究してきた！
- **ソフトウェア（感じ方、考え方、生き方）**：車の運転  
臨床心理学が経験を蓄積してきた！

# 二重盲検比較試験（治験）におけるプラセボ投与群の改善率

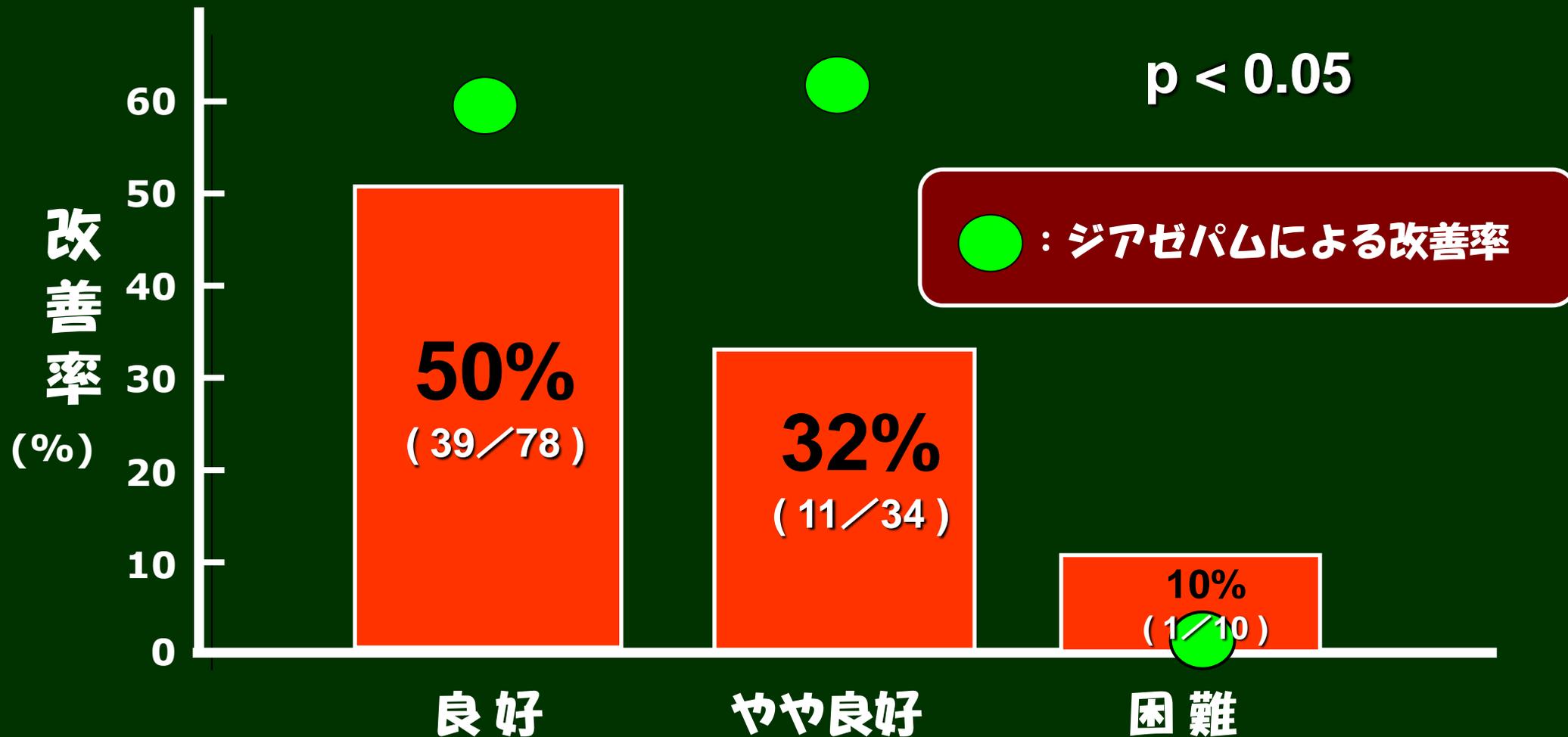


# 心身症におけるフラセボ投与群の改善率と薬効



# 内科領域の心身症における フラセボと抗不安薬による改善率

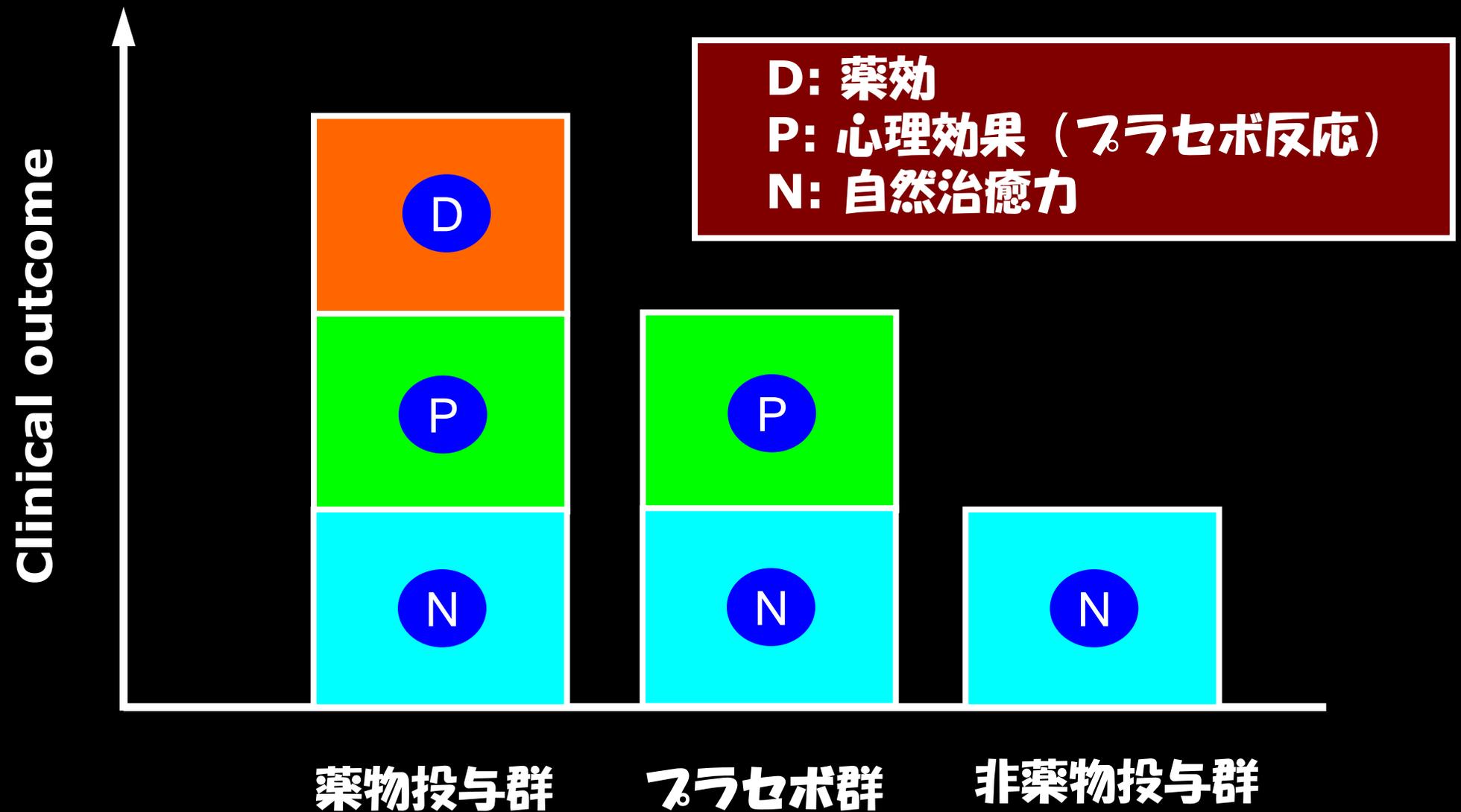
## 患者医師関係：信頼関係



**聴く は 効く に通ず！**

**話す は 放す に通ず！**

# 薬効とプラセボ投与群の改善率



***The most powerful drug is ...***

***the doctor yourself.***

***the therapist yourself.***



***the patient yourself.***

# 自然界の特徴は？（人間も自然の一部！）

**多様性にある！ 個性の存在！**

**全く同じものは存在しない！**

**全く同じ「人間」はいない！**

**全く同じ「病気」も存在しない！**

**人工的なものの特徴：**

**全く同じものを創ることが出来る！**

**There are no diseases.  
There are only sick people.**

**Alan Gregg**

**病人 (patient) : 具体 (自然)**  
**病氣 (disease) : 抽象 (人工)**

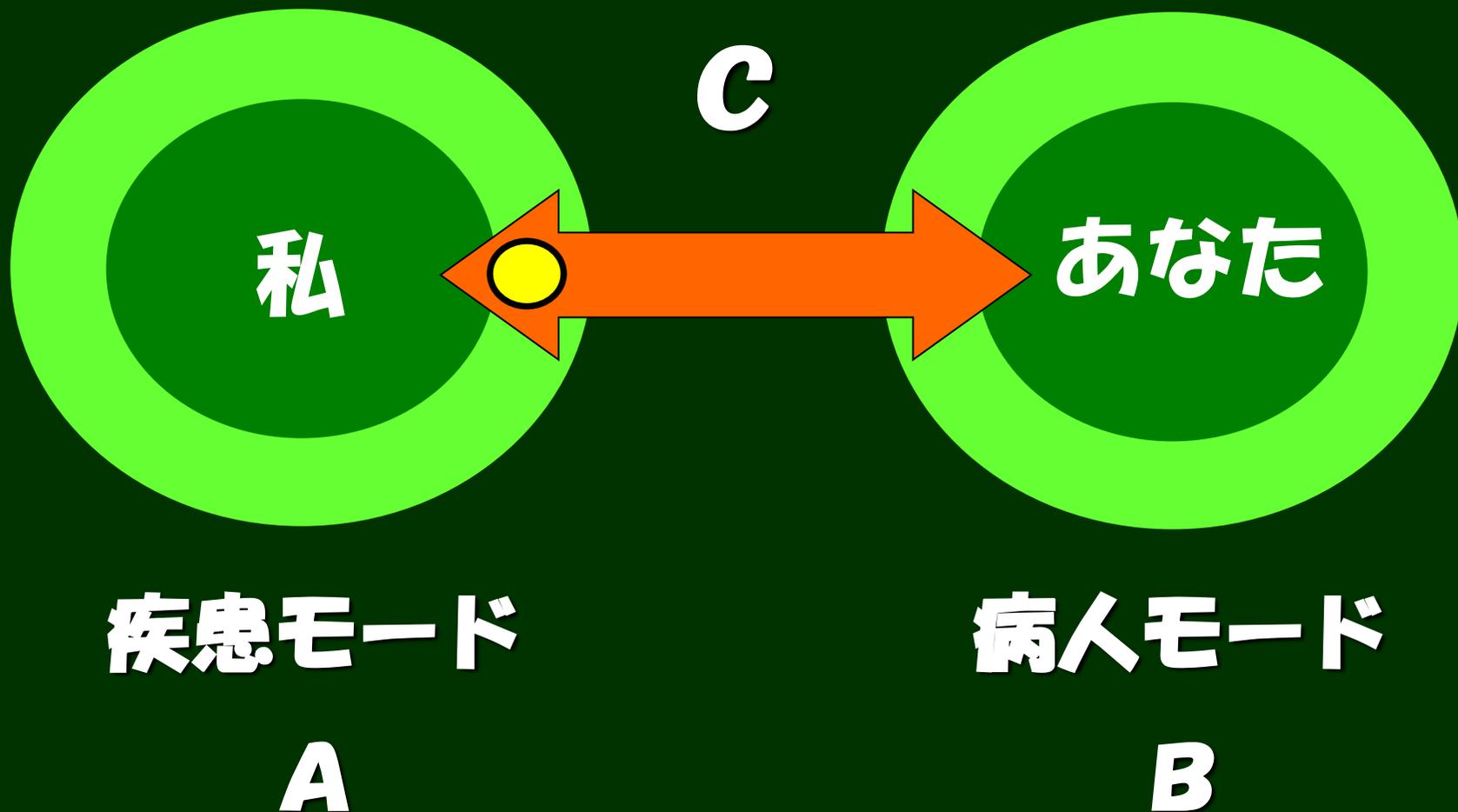
# コミュニケーションとは？ communication

シンボルを介した 当事者間の  
相互作用のプロセス

双方の情報を 互いに共有しようとする  
プロセス

コミュニケーションには「癒し」がある！

# やわらかなな 1.5 人称



疾患モード

患者の感じ方



病人  
モード

# 模擬患者の会を設立

国立西別府病院（森田明院長）と大分医科大学臨床基礎学講座（中野重行教授）は、患者と医療者との信頼関係を築き、よりよい医療を提供するために重要とされる模擬患者（SP）のホラント・アクループを県内では初めて設立した。同病院と西別府大は、今年二月から、定期的に勉強会を開き、半年後をめどにSPとしての活動を始める。

同医大で十六日、SP研究会があり、医師や看護婦、一般の人など約四十人が集まった。岡山県にある岡山SP研究会の福原純子さんが実演を交えた講演で、模擬患者について「患者が医師

## 接遇マナーの向上めざし 半年後めど、活動開始

とよい関係を築く手助けをするのが役割」と強調した。

福原さんは、心臓の痛みを訴える教師役、患者役を演



患者役を演じる福原さん（右）と医師役の学生

和感があるのが、感銘をよめる患者を演じた。医師役の学生は「教師を勇めなければならぬかもしれない」。

「患者と接する上で早く薬をもらって帰りたい」など、不安を抱いたり、希望病状や症状、性格や家族構成などを演じる患者の気持ちをよくみ取れたが、どうか体験した。

学生は「團體で作業すべきは身につけられた」、別府市から参加した女性は「理解を得るには言葉だけでなく、態度も重要なことがよく分かった」と感想。

中野教授は「医学教育の現場において、SPの必要

性が高い。関心のある人は参加してほしい」と呼びかけた。

SPは医学生の医療面接実習や病歴の聴取マナー研修などで活躍する。特定の病状や症状、性格や家族構成などをあらかじめ設定して患者役を演じる。医師らとのやり取りで感じることが、医師役は医大、医師や学生は反対の態度も話し方などを改善する。

問い合わせ先は、西別府病院（☎0997・24・1251）、同医大臨床基礎学講座（☎097・5865599）。



# 響き合いネットワーク連絡協議会

医療コミュニケーションのワークショップ

- 響き合いネットワーク大分 (2001年)
- 響き合いネットワーク東京 (2006年)
- 響き合いネットワーク長崎 (2007年)
- 響き合いネットワーク山形 (2009年)
- 響き合いネットワーク湯布院 (2010年)

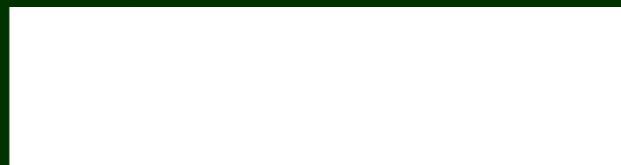
響き合いネットワーク岡山SP研究会

# 離見の見、メタ認知、大局観

医療者役



患者役



観察者役

- \* 学習方法：役割を交代して練習する
- \* 各人が、3つの役割を経験する

# 効果的な学習法

ロールプレイの中で体験したことについて、

「感性」を磨くために：

「事実」と「感情」を分けてとらえる！

「理性」を鍛えるために：

「事実」と「考え」を分けてとらえる！

「感性」と「理性」のバランスのよい育成

# 理性と感性

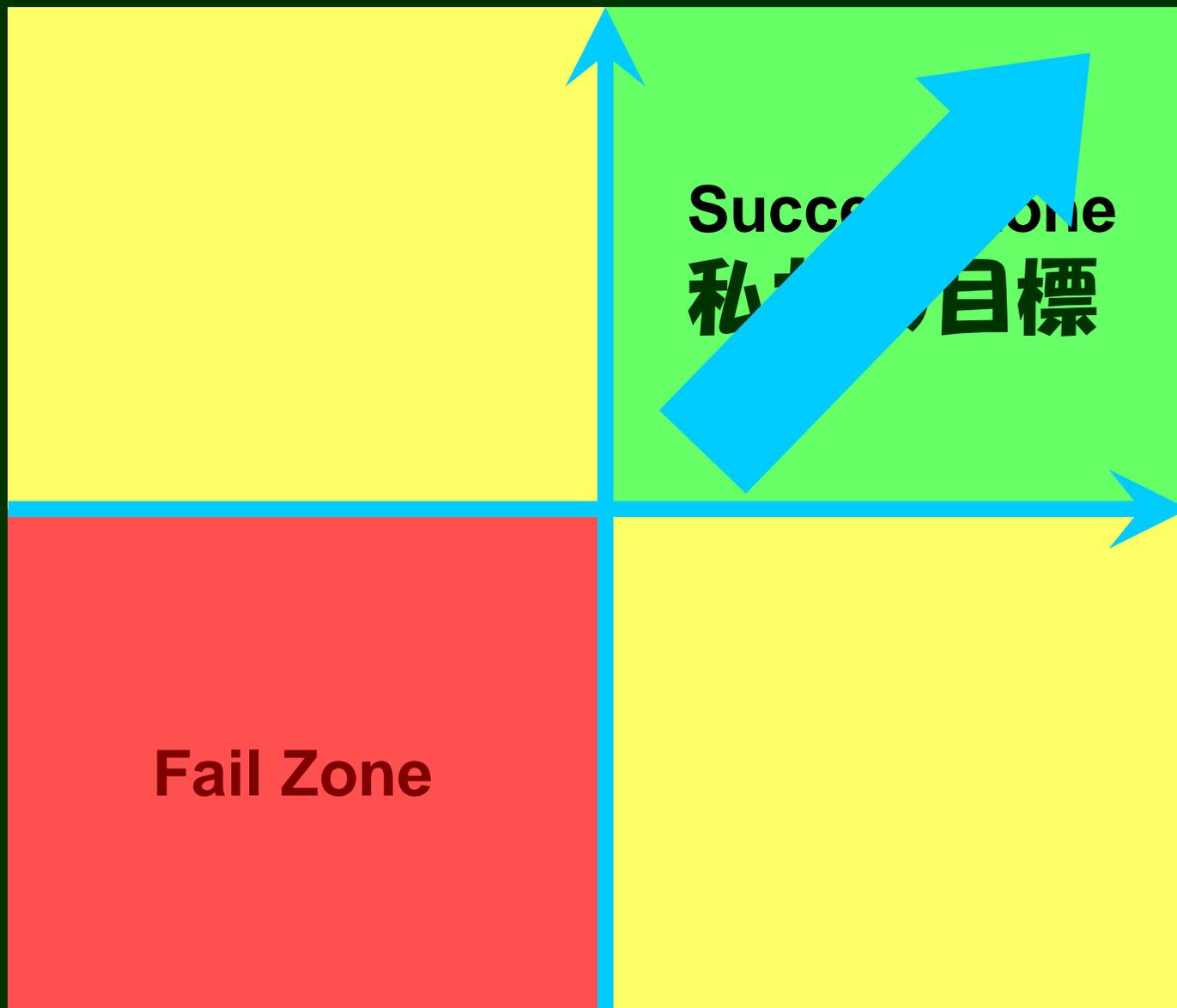
**理性** 自然を理解しコントロールしようとする！  
革新的、西洋医学、病気と闘う！

**感性** 個体としての自己を守ろうとする！  
保守的、東洋医学、病気と共に生きる！

## 理性と感性のバランス

互いの暴走にブレーキをかける役割

**理性** 考える！



**感性**  
感じる！ 気づく！

# 医療の基本構造

サイエンス

EBM

エビデンスを創る  
標準化

エビデンスを使う  
個別化

薬物

医療機器

ハード

医療者

ソフト

患者

ソフト

アート

NBM

医療コミュニケーション

# 心理学の基本構造

サイエンス

エビデンスを創る  
科学的研究

科学的  
エビデンス

エビデンスを使う  
個別化

抽象

医療者  
ソフト

患者  
ソフト

相互作用

具体

アート

# サー・ウィリアム・オスラー (1849~1919)

- ・カナダ人 内科医
- ・近代医学の父
- ・臨床医、クリスチャン
- ・米国ジョンズホップキンス大学
- ・日野原重明先生が日本に紹介  
(日野原先生の *role model*)



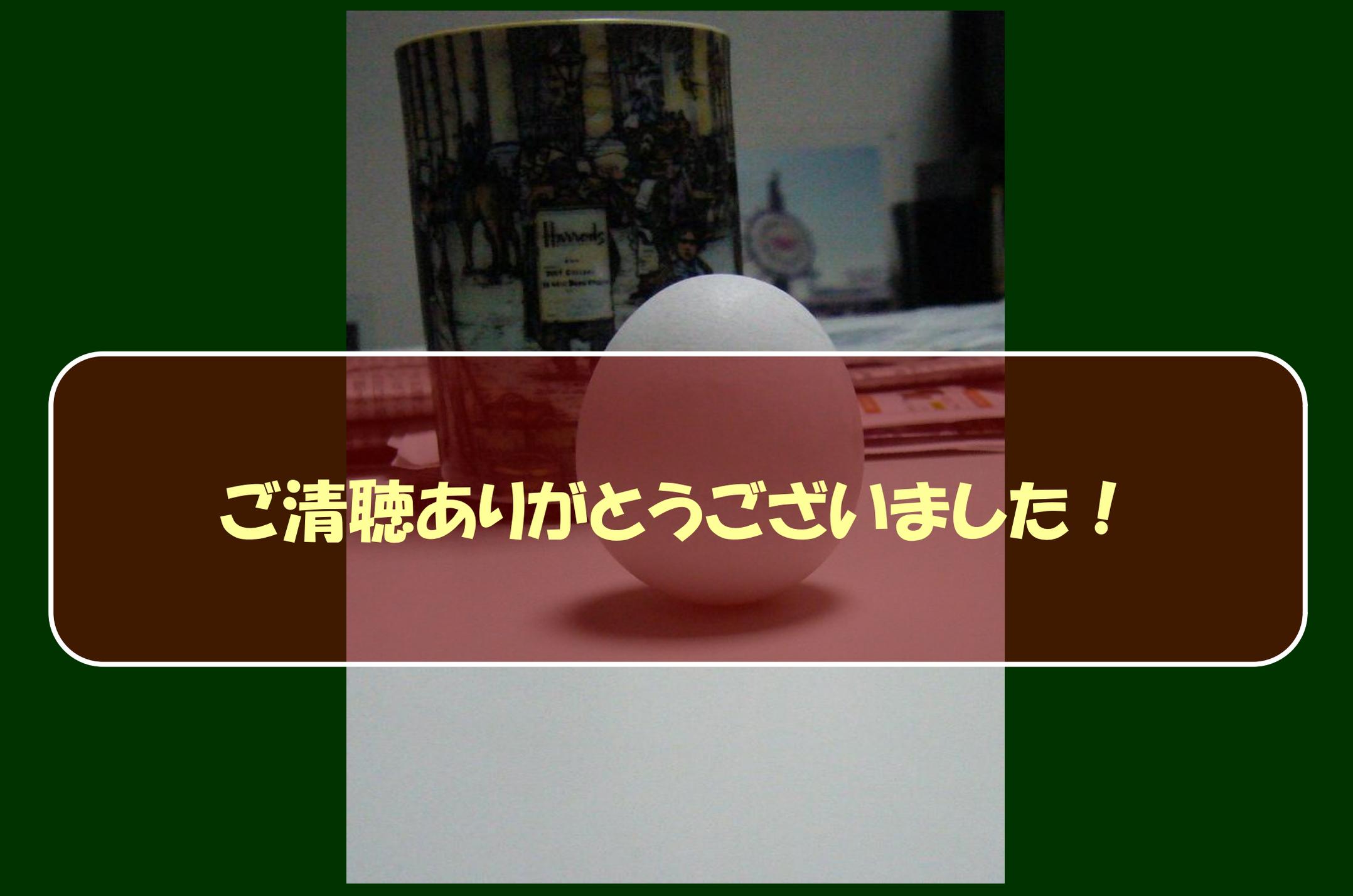
**Medicine is an art, based on science.**

**NPO法人**  
**豊の国より良き医療と健康づくり支援センター**  
**(豊サポート)**

<http://www.toyo-sup.org/index.html>

**大分大学医学部**  
**創薬育薬医療コミュニケーション講座**

[http://www.med.oita-u.ac.jp/  
pharmaceutical\\_medicine/](http://www.med.oita-u.ac.jp/pharmaceutical_medicine/)

A photograph of a white egg on a pink surface. In the background, there is a glass mug with a Harrods logo and a winter scene illustration. The image is overlaid with a dark brown rounded rectangle containing yellow Japanese text.

**ご清聴ありがとうございました！**